

円覚寺境内境界北尾根（洞門部分）開削 に反対する学識者の緊急アピール

「北鎌倉・円覚寺の谷戸景観の保存を求める有志の会」が4月1日、日本中世史や考古学、建築工学の第一線の学識者からのアピール（意見）を、鎌倉市長あてに提出しました。

伊藤正義さん 鶴見大学文化財学科教授

円覚寺南西角の区画尾根の先端部は、鉄道敷設、複線化、駅ホーム設のいずれによっても著しい削り取りや改変を受けてはいないと判断される。

内海恒雄さん 前・鎌倉世界遺産登録推進協議会広報部会長

昭和42年の円覚寺境内の国指定史跡は、指定理由に「近時の鎌倉における異常な開発に対処し、その由緒を保護するため旧境内を指定するものであって、主として円覚寺伽藍図(重文)に則る。」とあり、円覚寺伽藍図(重文)すなわち「円覚寺境内絵図」に基づいて、国指定史跡になっています。この絵図と同じ時期と見られる「浄光明寺敷地絵図」に基づいて、浄光明寺境内は平成19年に、国指定史跡に追加されますが、鎌倉の世界遺産登録を推進する事業の一つとして進められ、絵図に基づいて、現在の浄光明寺境内に限らず、周辺の市街地を含んだ広範囲のものでした。

このころの世界遺産登録に向けての国指定史跡の拡大は、国縣市が一体となって進められましたが、寺社や遺跡の拡大部分が多いので、世界遺産登録を実現する中で、進める事業もあり、同じ時期の絵図に基づいて拡大する必要があると見られる円覚寺境内もその一つでした。鎌倉の世界遺産登録に欠かせない円覚寺境内絵図に基づいて国指定史跡を拡大し、鎌倉時代以来の古都鎌倉の景観を守ることは私たちの当然の責務ではないでしょうか。

岡 陽一郎さん 東北学院大学非常勤講師

過日、JR北鎌倉駅ホームにかかる岩盤を撤去する作業を予定している旨を聞き及びました。この作業を中断していただくようお願いし

ます。

件の岩盤は、自動車の通行などに支障を及ぼしていることは承知しておりますが、岩盤そのものは『円覚寺境内絵図』で描かれている、中世の円覚寺の境界に相当する遺構です。

鎌倉は中世前期の歴史で有名であります。実はその当時の建造物は荏柄天神社と大仏、和賀江嶋くらいしかありません。これは世界遺産登録の時にもネックとなっており、少し歴史をかじった人間にとっては失望の元になっています。その意味ではやぐらを始めとする土木遺構は、中世前期の鎌倉を語る貴重な証言者となっていますが、防災対策名目で行政の手で、日々破壊されていることは言うまでもありません。歴史を生かした都市や、観光で市の振興を図ってる行政当局によって、鎌倉の歴史資産が破壊されているというのは、自分の手足を自分でもいんでいるようで皮肉です。世界遺産登録を鎌倉が苦しんでいるのも、詰まるところは同時代資料の少なさにありますが、市当局は世界遺産登録を目指す一方で、資料の破壊を進めているのはいかなものかと思えます。

円覚寺の場合も、鎌倉時代の建造物はありませんから、件の岩盤は当時の円覚寺の寺域を語る、わかりやすくかつは貴重な歴史資料です。それが破壊されてしまったら、当時の円覚寺の様子を現地で想像するための手がかりは、さらに減ります。

そうした意味で、冒頭でお願いしたように作業の中断を再度お願いする次第です。

岡本 孝之さん 神奈川県考古学会会長

円覚寺結界遺構を削ることは許されません。
強く反対します。

落合 義明さん 山形大学准教授 日本中世史（鎌倉寺院史に詳しい）

北鎌倉駅の岩塊の歴史的価値について

この岩塊は、14世紀に描かれた「円覚寺境内絵図」の西側結界にあたると考えられ、鎌倉時代の貴重な遺構ともいえます。

是非、この文化遺産を保存していただけることを願います。

金子 哲さん 兵庫大学共通教育機構教授
日本中世史専攻(禅宗と律宗寺院史に詳しい)

北鎌倉駅近くにある、通称「緑の洞門」が開削されている尾根筋は、建武年間に描かれたと考えられている「円覚寺境内絵図」の結界線と重なる貴重な存在です。

この尾根筋は中世と現在とを結び、景観的価値のみならず、歴史的価値文化的価値も極めて大と考えます。この尾根筋の破壊に反対するとともに、通称「緑の洞門」の補強も含むこの尾根筋の保存を強く必要と考えます。

菅野 成寛さん 中尊寺釈尊院住職 岩手大学客員教授

中世の都市鎌倉の様相を語る重要な円覚寺結界遺構、「岩塊」の保存と保護を強く要望いたします。

鈿持 輝久さん 赤星直忠博士文化財資料館研究員

このほど鎌倉市が、JR北鎌倉駅ホーム横に接したトンネルのある、削り取り住民の交通の安全のために、コンクリート擁壁にすると聞き、驚いております。

この岩塊は「円覚寺境内絵図」からみて、円覚寺西側結界の一部であることは明らかです。鎌倉の歴史を伝えるものとして、また、歴史教育の上でもたいへん重要な遺跡です。

私は市民の安全性を、何よりも優先させなければならないと思いますが、それとともに祖先から伝わる文化財の保護・歴史的景観の保全も大切なことと考えます。ぜひとも市民の安全性と文化財の保護・歴史的景観の保全を、鎌倉市が両立させ、この問題に対応されることを強く要望します。

小泉 淳さん 早稲田大学理工学術院 教授

私は日本トンネル技術協会に委託された本検討会の委員であったため、メッセージを出すにはかなりの抵抗があります。しかし、今まで参加した委員会の中でも、この委員会の結論には何となくすっきりしないものがあります。「結論ありき」の委員会も多くありましたが、これほど明確な委員会とはかになかったように感じています。「何を目的に道路を拡幅するのか」が、解けない謎です。どのようなものでも一度破壊してしまえばもとに戻すことはできません。現状の洞門は